



市有林のヒノキを加工した床材（滝尾小学校）



苗木を植えた頃の大南地区の山（提供：大分県）



野津原地区のスギ林

# 森を育てて次代へつなぐ



市の面積のおよそ半分を占める森林。戦後に植えられた木々が今、収穫期を迎えています。今回は、森林が持つ機能や林業に携わる人、市の林業施策などを紹介します。

図 林業水産課 ☎537・5783

## 半世紀の歳月を経て成長してきた木々

国土の約3分の2が森林に覆われ、世界でも有数の森林国と言われている日本。森林から切り出された木々は、建物や家具、食器などに使われ、昔から木材を使用する文化を築いてきました。大分市も面積のおよそ半分、2万4千ヘクタールほどを森林が占めています。

森林が持つ機能は、木材供給のほかにも多岐にわたります。まずは災害防止機能。樹木の根が土や石を固定し土砂の崩壊を防ぐほか、下草や落ち葉は雨による土の流出を抑えます。森林の土壌はスポンジのように水を吸収して蓄え、徐々に河川へ流します。この働きにより、洪水を緩和することができます。次に、森林の樹木が大气中の二酸化炭素を吸収することによる地球環境保全機能。さらに、森林浴のように緑の多い森林の中を散歩することによる癒やしの効果など、森林は私たちの暮らしの中で大きな役割を果たしています。

戦後、復興のため木材需要が急増し、日本各地に木材生産のための人工林が造成され、市内にもスギやヒノキなどが多くの人々の手によって植えられました。このとき植栽された苗木が成長を遂げ、今、木材として活用できるタイミングを迎えています。苗木が成長し、木材として利用できるまでには、約40年から50年の歳月を要します。その間、放っておくだけでは木々は育ちません。今日の収穫期は、半世紀に渡って森林を守り育ててきた、林業に携わる人たちの力があつたからこそといえます。

## 地元の木材を使うメリット

### 1. 森林の機能を持続的に発揮できる

木材の供給が増えることで地元の森林の整備が進み、災害防止機能や環境保全の働きといった、森林が持つ多様な機能の維持向上につながります。

### 2. 環境に優しい

木が切られてから木材として利用されるまでの移動距離が短いため、輸送の際に排出される二酸化炭素の量を抑えることができます。

### 3. 林業や木材産業の活性化

地元の木材を使うことで、林業をはじめとした地域経済の活性化が期待できます。